

黄金を知らせた美女

日立市

鎌倉時代の初めのころのお話です。

岡源衛門という百姓が、金沢村（現在の金沢町）の飯盛山から毎夜不思議な青白い光を発しているのを見つけました。

ある夜、光の正体を確かめようと飯盛山に向かいましたが、道に迷い疲れ果てて藪の中で眠り込んでしまいました。すると、丑三つ時（夜の二時ころ）藪の辺りが明るくなつたかと思ふと、白絹の衣に緋のはかまを身に着けた、美しい顔立ちの女官が目の前に現れました。そして、「わたしは伊勢の神である。あなたはこの光を確かめに来たのであろう。それは黄金が発する光で、その黄金を掘り国のために使うが良い」そう言うとうつつと消えてしまいました。



源衛門はすぐに鎌倉に馳せ参じ、この出来事を知らせました。源頼朝はこれを聞き入れ、鎌倉より金掘り職人を遣わし採掘にかかると、本当に黄金ができたのでした。

源衛門は、幕府より褒美として「富」の一字を賜り、それからは「富岡源衛門」と名乗ったそうです。

その後、源頼朝より、これは天照大神のご神託のあつたという藪の地に伊勢神を「天照皇大神宮」として崇め尊ぶべしとご沙汰があつたので、村人たちは女官が現れた藪を三尺四方掘り起し、これを地元の近くに移し伊勢神宮として創建、崇拝してきました。

元禄11年（西暦一六九八年）徳川五代将軍綱吉の時代、当時の水戸藩主光圀公の命により、現在の場所に遷座させられましたが、明治6年、太政官布告により「皇大神宮」の名は伊勢のみとしたため、この神社は伊勢にちなみ「伊勢神社」と呼ばれるようになったということです。

（参考文献）私たちの民話（書伊藤正夫・大越吾／茨城の史跡と伝説（茨城新聞社編）※掲載事項には諸説あります。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>